

前日の台風にも負けず盛大に開催 竜丘市民運動会



樽に替えての缶転がし

同じく採点種目の「素敵なカップ」

運動会は、前日の会場準備から本格的な作業が始まりましたが、今年台風の影響で開催が心配されましたが、体育委員の皆さんを始め、多くの関係者の努力で無事開催することができました。

しかし、体育委員を始め多くの役員の方々が、当日の早朝から懸命の準備を行ったため、開会時間を一時間遅らせただけで、無事開催することができました。

午前九時三十分の開会宣言に引き続き、小学生による聖火リレーの入場、桐林分館代表の六年生、牧ノ内翔吾君の元氣一杯で気持ちの良い選手宣誓で運動会の幕が切って落とされました。

準備体操に続く種目の小学生、保育園・幼稚園児による「かけっこ」には、多くの元気な子どもたちの参加がありました。

十月十日(日)、竜丘小学校グラウンドで市民運動会が開催されました。前日の台風二十二号の大雨の影響で開催が心配されましたが、体育委員の皆さんを始め、多くの関係者の努力で無事開催することができました。



早く早く！ 竜丘ウェーブ

運動会では各分館の応援も欠かさない小学生ですが、実は、運動会当日はNTTドッジボール大会が開催される日でもありません。

NTT大会の女子の部が、たまたま市民運動会と重なってしまっただけで、どちらに参加するか悩みがあつたことと思えます。しかし、分館の応援や聖火リレーの中心となる六年生は、市民運動会へ出ることもなりました。子どもたちの地域活動への参加は、本当にうれしく頼もしいことだと感じました。

分館対抗の採点種目では、メドレーリレーが最初に行われました。「缶転がし」では、気持ちは前進しているのに肝心の缶が右や左へと転がり苦勞している選手、「タイヤ引き」で、砂煙を上げてタイヤを引く選手の姿に声援が寄せられました。

午前中最後の「オールスターリレー」は、各分館を代表する章駄の皆さんが素晴らしい走りを見せてくれました。リレーの前半は年齢、性別によって走る順番が決まっていますが、後半は分館の自由という中で、最終走者まで順位が判りにくくなっているのです。

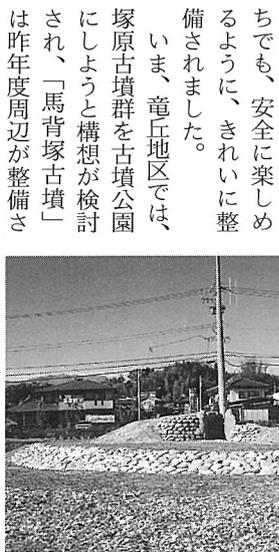


発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,849人
男子	3,358人
女子	3,491人
世帯数	2,164戸
(16年11月末現在)	

復元された地域の想い 「大座2号古墳」竣工

大座2号古墳の移築復元が完成しました。JR時又駅南の踏切付近にありましたが、治水対策事業で整備区域になったために、平成十四年度に発掘調査が行われ、特徴ある石室が明らかになり、見学会や説明会も行われたので、記憶に新しいことです。この貴重な地域の財産をぜひ移築して残したいと地域で市に要望を出し、古墳



りには木のチップが敷かれ、説明板も設置されました。見学に来る人、公園に遊びに来た子どもたちでも、安全に楽しめるように、きれいに整備されました。いま、竜丘地区では、塚原古墳群を古墳公園にしようにと構想が検討され、「馬背塚古墳」は昨年度周辺が整備されました。白井川秘境など

が、抜きつ抜かれつの白熱したレースでした。最後の種目の「年次むかでも、チーム全員の気持ち揃って早く走ることは難しいものです。女子の部一位の上川路、男子の部一位の長野原分館はとも思のあったいい走りを見せられました。開始時間を一時間遅らせ

たこと、また途中で数回降雨があったため、数種目を中止するなど、役員の方々は運営に苦勞したと思いますが、楽しい運動会ができました。分館の最終順位は、優勝が桐林。以下、二位長野原三位上川路、四位時又、五位駄科という結果でした。

熱心に管理しています。これからの子どもたちの自然体験の場として活用できるよう、整備を進めていきたいと思います。

さかなつかみに大賑い 〜竜丘水辺の楽校自然体験交流イベント〜

秋晴れに恵まれた九月十二日(日)に、竜丘水辺の楽校で自然体験交流イベントが行われ、親子連れなど約二百人以上の皆さんが参加しました。開会式の後、草原での遊びはクツとばし、ストラップ

取りで放流されたのはフナ千五百匹余とウナギ八匹です。最初は手づかみで、その後、ザル、バケツ、網を使って取りました。魚も必死で逃げるの

「世界の子どもが、お金の地位を求めますか。戦争を求めますか。子どもたちが求めているのは、親や回りの大人たちからの優しさや愛です。優しさや愛を与える、こんな簡単なことが、今なぜできないのでしょうか。どの子どもがこんな哀しい世界に生まれたかったでしょうか」最近心に響いた言葉である。



和気あいあいの秋まつり

分館が中心となり、各種団体が実行委員会を組織し毎年行なわれています。今年で、第十四回を数え、地区をあげての、秋の恒例行事となっています。朝の花火を合図に始まり、まず田んぼのなかで、お玉を使っての、組合対抗「玉ちゃんレース」が行なわれ、その後、マスキ、焼きき芋・綿菓子・ポップコーン・豚汁と様々な

地区民総出で、手作りで準備、開催された上川路まつり、子どもも大人も楽しんでいるが、成長の過程で家庭・学校・地域において、どのように人と係わりを持ち、繋がりを築いてきたかが問われているのではないだろうか。

和気あいあいの秋まつり

地区がひとつに盛り上がる！ 上川路 秋まつり

上川路秋まつりが、十一月三日(水)、ぬけるような秋晴れのした、上川路公民館を会場に行なわれました。分館が中心となり、各種団体が実行委員会を組織し毎年行なわれています。今年で、第十四回を数え、地区をあげての、秋の恒例行事となっています。朝の花火を合図に始まり、まず田んぼのなかで、お玉を使っての、組合対抗「玉ちゃんレース」が行なわれ、その後、マスキ、焼きき芋・綿菓子・ポップコーン・豚汁と様々な



和気あいあいの秋まつり

ヤブウ

世界の地震の約一割が、日本列島近辺で発生するといわれるくらい、日本は地震列島である。新潟県中越地震では、今も尚多くの人が避難生活を送っている。道路や情報網が至る所寸断され、甚大な被害が確認されるまで時間がかかり、陸の孤島となった地域もあった。阪神大震災とは異なり中山間地域特有の被害が多く見られ、大自然に対し人間の力はいかに無力か改めて思い知った。その中で、懸命の救助で小さな命が助かったり、ボランティアの活躍など心温まる話も聞かれた。被災地の一刻も早い復旧を心から願う。

充実した展示と催し 賑わった竜丘地区文化祭

秋色がしだいに濃くなった、十一月十三・十四日の両日、平成十六年度の竜丘地区文化祭が竜丘公民館で開催されました。特別企画展や盛り沢山の展示・催しが行われ、多くの地区住民が訪れて賑わいました。



竜丘の自由教育を総括した企画展

当日は、公民館玄関で開会のセレモニーが行われ、参加団体を代表して五人の方がテープカットをし、文化祭が開幕しました。館内には、各種団体やグループの日頃の活動成果など様々な展示品が、ホールをはじめとして各部屋、廊下まで所狭しと飾られ、その一つひとつが創意工夫の詰まった力作が紹介され、絵入りで描かれた学校史、北原白秋や山本鼎ら文化人との交流を示す貴重な書簡なども展示され、訪れた人たちの注目を集めました。

また、五月にNHK「そのとき歴史が動いた」で放映された映像

白井川秘境の遊歩道整備と塚原古墳群の公園化の取り組みを紹介していました。今回は、例年に比して各種団体の参加が多く、しかも工夫した内容や展示などがみられ、大変好評でした。催し物も多彩に行われ、子どもたちに大人気の財産区のクラフト工芸や茶道教室の茶会コーナー、喫茶軽食コーナーは好評で終日賑わいをみせていました。

また、屋外ではスポーツ祭が行われベタンクを

み、餅＆宝投げでは大きな歓声が響いていました。訪れた人たちは思い思いに展示や催しを楽しみ、ふれあいをした素晴らしい文化祭となりました。

セミのぬけがら 数あてクイズ 答え1,193

文化祭二日間の投票総数は二百七名でした。ピタリ賞は無く、チカイデ賞は七つ違いの次の十二名の方でした。(駄科) 伊藤瑞菜、増田志保子、桐生澁太(長野原) 大平敏司、高畑貴子、田中みどり(時又) 林佳奈(上川路) 塚平聡、金子隆一、塚平真弓(桐林) 久保田茶如、原豊子以上の皆さんです。

約束のとおりこの記事で当選者の発表とします。豪華賞品が用意してありますので、児童センターへ平日の午後お寄りください。児童センターは小学校の下にあります。(電話2618614)



民俗資料保存委員会の藁仕事展

多くの受講者であふれた 市民大学講座を ふりかえる

市民大学講座は、去る十一月十日(水)に開かれた第四講をもって、今年度予定していたすべての講座が終了し、のべ五百名を越える方が熱心に講義を受けました。

第一講は、九月二十四日(金)竜丘公民館ホールを会場に、自治協議会と共催で開かれました。先ごろ行われた飯田市長選を前に、立候補を予定している四氏から、見識や飯田への思いを聞く学習会でした。

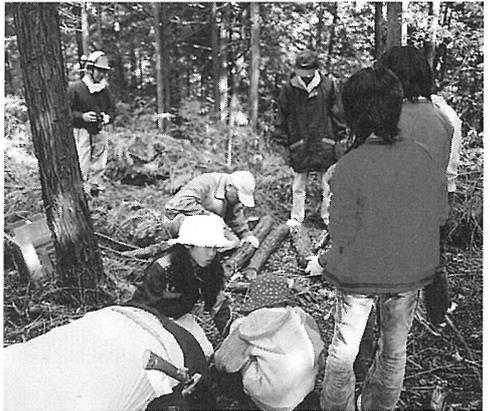
第二講は、九月二十六日(日)少し曇った天気の中、里山のふれあいの一環として、里山に集いピザ焼き石窯作りが行なわれました。

最初に財産区の皆さんの作業の説明や里山の現在の

森の宝物を発見!! 親子ふれあいハイキング

親子ふれあいハイキングが、十一月六日(土)財産区有林の里山へのコースで行われました。オムロン駐車場から伊賀良との境の山頂まで、約三キロのコースを思い思いの話をしながら歩いて行きました。今回は親子で七十余名の参加者があり、里山にふれあう機会となりました。

まず、林務課の松本さんから、山の働きや里山の役割、今年多い熊出没の原因などについて話を聞きました。その後は、枝打ち作業、まき割り・薪集め作業



班、きのこコマ打ち作業班の三つの班に分かれて作業を行いました。

森の作業をする中で、枝打ち作業は、木の価値を確保する役割や病気や虫食いを防ぐ役割、太陽の光を地面まで届きやすくし、草などが生えやすくなる役割、また、林の中を歩きやすくする役割など手入れの大切さがわかりました。

昼食は里山に作られた石窯でパンやピザを焼き、豚焼きやきのこ汁など山の幸を皆でおいしくいただきました。昼食後の自然散策で

子どもたちはきのこをたくさん見つけ大喜び。森の楽しみを一つ発見したようでした。

最後のネイチャーゲームは「チーム毎に分かれてフィールドビンゴ、里山の宝物を探そう」と題して、幹の様子や里山のいい匂い、動物がいた証拠などの「宝物」を発見しながら楽しく散策しました。

ゲームの終わりには、いつもの里山の静けさを感じるため、皆で目を閉じて耳を澄ました。鳥の鳴き声、森のざわめき、風のうなりなどを感じ、普段の生活では味わうことができない自然とのふれあいができました。



第三講 熱心に話を聞く参加者

ひのきの皮をめくり、石窯の屋根葺きをする為、おもしろい皮を伸ばしました。最後に、石窯の廻りにひのきの柱を四本建て、又、雨しのぎの屋根をかけて終了しました。

第三講は、竜丘史学会との共催で、十月三日(日)に駄科の念通寺本堂を会場に開かれました。

約六十名の受講者は、下平瑞澄住職から念通寺がこの地に建てられた起りや建造の際の苦労はなし、石段の両わきに並ぶ石仏のいわれなどをお聞きしました。中でも大正八年頃より、毎週土曜日には仏教が、日曜日には子どもたちを集めての日曜学校が開かれ、常時二百名近い参加者があったとのお話は、受講者一同たいへん興味深くお聞きしました。

校に出席していたという女性が、「学校はいつ頃までやってたか」ということを当時の思い出の中で話された。下平住職は、昭和十三年まで開いていたと答えたあとに、「子どもでも重要な働き手であった時代に、日曜学校に出すこの地域の親たちは教育意識が高い」と話されたのが心に残りました。

第四講は、十一月十日(水)に開かれました。

講師に駄科出身で名古屋市在住の関島芳馨氏を迎え、「大正期の竜丘自由教育に学んで、生きて」と題して実際に竜丘自由教育で学んだ



第二講 里山の石窯づくりの様子

ピザ焼き石窯のもととなる赤土は竜丘小学校北の林洋一さんから頂きました。わらとまぶした赤土を、頭の大さき位の塊に固めたものをいくつも作り、その塊を、石窯の竹の編んだ下に張りつけ、肉厚をつけてたきながら固めていきました。



接戦、接戦 分館の団結が感じられた 竜丘ソフトバレーボール大会

台風や新潟中越地震の影響も心配される中、小春日和にも恵まれた十月三十一日(日)に、竜丘ソフトバレーボール大会が行われました。

開会式では、木下公民館長が「しっかり筋肉をほぐし、日頃の運動不足の解消と、近隣地区民との交流を図って下さい。」とあいさつしました。また昨年度優勝の男子長野原三番組と女子駄科下平北によるトロフィー返還、駄科の牧野さんの力強い選手宣誓が行われ試合へと進められて行きました。

初戦から白熱対一の惜しい試合が多々ありました。

参加選手は、「久しぶりにスポーツしたで、足が痛いけど、楽しかった。」と話してくれました。親睦も目的とされている大会なので、とても有意義なものとなった様でした。

優勝 勝勢駄科・南平
準優勝 時又・五常会
結果 ④桐林・安城